

現行

改訂案

現行		改訂案		
A 全学年を通して:ヒューマニズムについて学ぶ	38	38	A 基本事項	47
(1)生と死	7		A1 薬剤師の使命	13
1 生命の尊厳			(1)薬剤師が果たすべき役割	6
2 医療の目的			(2)医療安全と薬害の防止	4
3 先進医療と生命倫理			(3)薬学の歴史と未来	3
(2)医療の担い手としてのこころ構え	15		A2 薬剤師に求められる倫理観	9
1 社会の期待			(1)生命倫理	3
2 医療行為に関わるこころ構え			(2)医療倫理	3
3 研究活動に求められるこころ構え			(3)患者の権利	3
4 医薬品の創製と供給に関わるこころ構え				
5 自己学習・生涯学習			A3 信頼関係の構築	10
(3)信頼関係の確立を目指して	16		(1)コミュニケーション	8
1 コミュニケーション			(2)患者・生活者と薬剤師	2
2 相手の気持ちに配慮する				
3 患者の気持ちに配慮する			A4 多職種連携協働とチーム医療	4
4 チームワーク				
5 地域社会の人々との信頼関係			A5 自己研鑽と次世代を担う人材の育成	11
B イントロダクション	22	22	(1)学習の在り方	5
(1)薬学への招待	18		(2)薬学教育の概要	2
1 薬学の歴史			(3)生涯学習	2
2 薬剤師の活動分野			(4)次世代を担う人材の育成	2
3 薬について				
4 現代社会と薬学との接点				
5 日本薬局方				
6 総合演習				
(2)早期体験学習	4			
C 薬学専門教育(C17(1), (4)+C18)		69	B 薬学と社会	41
C17 医薬品の開発と生産	27		B1 薬剤師と医薬品等に係る法規	20
(1)医薬品開発と生産のながれ	17		(1)薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規	8
1 医薬品開発のコンセプト			(2)医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規	9
2 医薬品市場と開発すべき医薬品			(3)特別な管理を要する薬物等に係る法規	3
3 非臨床試験				
4 医薬品の承認			B2 社会保障制度と医療経済	11
5 医薬品の製造と品質管理			(1)医療、福祉、介護の制度	5
6 規範			(2)医薬品と医療の経済性	6
7 特許				
8 薬害			B3 地域における薬局と薬剤師	10
(4)治験	10		(1)地域における薬局の役割	5
1 治験の意義と業務			(2)地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師	5
2 治験における薬剤師の役割				
C18 薬学と社会	42			
(1)薬剤師を取り巻く法律と制度	15			
1 医療の担い手としての使命				
2 法律と制度				
3 管理薬				
4 放射性医薬品				
(2)社会保障制度と薬剤経済	14			
1 社会保障制度				
2 医療保険				
3 薬剤経済				
(3)コミュニティーファーマシー	13			
1 地域薬局の役割				
2 医薬分業				
3 薬局の業務運営				
4 OTC薬・セルフメディケーション				
C1 物質の物理的性質		79	C 薬学基礎教育	
(1)物質の構造	24		C1 物質の物理的性質	56
1 化学結合	4		(1)物質の構造	20
2 分子間相互作用	7		1 化学結合	3
3 原子・分子	8		2 分子間相互作用	7
4 放射線と放射能	5		3 原子・分子の挙動	6
(2)物質の状態 I	21		4 放射線と放射能	4
1 総論	3		(2)物質のエネルギーと平衡の原理	19
2 エネルギー	9		1 気体の微視的状态と巨視的状态	3
3 自発的な変化	9		2 エネルギー	7
			3 自発的な変化	5
			4 化学平衡の原理	4
(3)物質の状態 II	21		(3)混合物の状態と性質	10
1 物理平衡	8		1 相平衡	4
2 溶液の化学	7		2 電解質溶液の性質	3
3 電気化学	6		3 電気化学	3
(4)物質の変化	13		(4)物質の変化	7
1 反応速度	10		1 反応速度	7
2 物質の移動	3			
C2 化学物質の分析		44	C2 化学物質の分析	48

現行

改訂案

(1)化学平衡		12		(1)分析の基礎		3
1 酸と塩基	6			(2)化学平衡の応用		8
2 各種の化学平衡	6			1 酸・塩基平衡	3	
(2)化学物質の検出と定量		20		2 各種の化学平衡	5	
1 定性試験	3			(3)化学物質の定性・定量分析		9
2 定量の基礎	5			1 定性分析	2	
3 容量分析	7			2 容量分析・重量分析	7	
4 金属元素の分析	2			(4)機器を用いた分析法		15
5 クロマトグラフィー	3			1 分光分析法	6	
(3)分析技術の臨床応用		12		2 核磁気共鳴スペクトル測定法	2	
1 分析の準備	9			3 質量分析法	3	
2 薬毒物の分析	3			4 X線分析法	2	
				5 熱分析	2	
C3 生体分子の姿・かたちをとらえる		23		(5)分離分析法		6
(1)生体分子を解析する手法		13		1 クロマトグラフィー	5	
1 分光分析法	6			2 電気泳動法	1	
2 核磁気共鳴スペクトル	2			(6)分析技術の臨床応用		7
3 質量分析	2			1 分析の準備	2	
4 X線結晶解析	2			2 分析技術	5	
5 相互作用の解析法	1					
(2)生体分子の立体構造と相互作用		10				
1 立体構造	6					
2 相互作用	4					
C4 化学物質の性質と反応		96		C3 化学物質の性質と反応		61
(1)化学物質の基本的性質		28		(1)化学物質の基本的性質		17
1 基本事項	9			1 基本事項	9	
2 有機化合物の立体構造	7			2 有機化合物の立体構造	8	
3 無機化合物	5			(2)有機化合物の基本骨格と反応		13
4 錯体	7			1 アルカン	5	
(2)有機化合物の骨格		19		2 アルケン・アルキン	3	
1 アルカン	7			3 芳香族化合物	5	
2 アルケン・アルキンの反応性	7			(3)官能基の性質と反応		14
3 芳香族化合物の反応性	5			1 概説	2	
(3)官能基		23		2 有機ハロゲン化合物	3	
1 概説	6			3 アルコール・フェノール・エーテル	2	
2 有機ハロゲン化合物	3			4 アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体	3	
3 アルコール・フェノール・チオール	3			5 アミン	1	
4 エーテル	2			6 電子効果・酸性度・塩基性度	3	
5 アルデヒド・ケトン・カルボン酸	3			(4)化学物質の構造決定		13
6 アミン	2			1 総論	1	
7 官能基の酸性度・塩基性度	3			2 核磁気共鳴(NMR)	5	
(4)化学物質の構造決定		26		3 赤外吸収(IR)	2	
1 総論	1			4 質量分析	4	
2 ¹ H NMR	8			5 総合演習	1	
3 ¹³ C NMR	2			(5)無機化合物・錯体の構造と機能		5
4 IRスペクトル	2			1 無機化合物・錯体	5	
5 紫外可視吸収スペクトル	1					
6 マススペクトル	7			C4 生体分子・医薬品を化学で理解する		38
7 比旋光度	4			(1)医薬品の標的となる生体分子の構造		6
8 総合演習	1			1 医薬品の標的となる生体構成分子の化学構造	2	
				2 生体内で機能する小分子	4	
C5 ターゲット分子の合成		23		(2)生体反応を化学で理解する		9
(1)官能基の導入・変換		12		1 生体内で機能するリン、硫黄化合物	2	
(2)複雑な化合物の合成		11		2 酵素阻害剤と作用様式	3	
1 炭素骨格の構築法	4			3 受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト	2	
2 位置および立体選択性	2			4 生体内で起こる有機反応	2	
3 保護基	1			(3)医薬品の化学構造と性質、作用		23
4 光学活性化合物	1			1 医薬品と生体分子の相互作用	2	
5 総合演習	3			2 医薬品の化学構造に基づく性質	2	
				3 医薬品のコンポーネント	3	
C6 生体分子・医薬品を化学で理解する		32		4 酵素に作用する医薬品の構造と性質	7	
(1)生体分子のコアとパーツ		14		5 受容体に作用する医薬品の構造と性質	5	
1 生体分子の化学構造	5			6 DNAに作用する医薬品の構造と性質	3	
2 生体内で機能する複素環	3			7 イオンチャンネルに作用する医薬品の構造と性質	1	
3 生体内で機能する錯体・無機化合物	3					
4 化学から観る生体ダイナミクス	3			C5 自然が生み出す薬物		25
(2)医薬品のコアとパーツ		18		(1)薬になる動植物		14
1 医薬品のコンポーネント	2			1 生薬の基原	5	
2 医薬品に含まれる複素環	5			2 生薬の用途	4	
3 医薬品と生体高分子	3			3 生薬の同定と品質評価	5	
4 生体分子を模倣した医薬品	5			(2)薬の宝庫としての天然物		11
5 生体内分子と反応する医薬品	3			1 生薬由来の生物活性物質の構造と作用	5	
				2 微生物由来の生物活性物質の構造と作用	2	
C7 自然が生み出す薬物		39		3 天然生物活性物質の取扱い	1	
(1)薬になる動植物		22		4 天然生物活性物質の利用	3	
1 生薬とは何か	3					
2 薬用植物	5					
3 植物以外の医薬資源	1					
4 生薬成分の構造と生合成	7					

現行

改訂案

5 農薬、化粧品としての利用	1						
6 生薬の同定と品質評価	5						
(2)薬の宝庫としての天然物		8					
1 シーズの探索	3						
2 天然物質の取扱い	2						
3 微生物が生み出す医薬品	1						
4 発酵による医薬品の生産	1						
5 発酵による有用物質の生産	1						
(3)現代医療の中の生薬・漢方薬		9					
1 漢方医学の基礎	7						
2 漢方処方への応用	2						
C8 生命体の成り立ち			68	C6 生命現象の基礎			57
(1)ヒトの成り立ち		19		(1)細胞の構造と機能			4
1 概論	2			1 細胞膜	1		
2 神経系	3			2 細胞内小器官	1		
3 骨格系・筋肉系	2			3 細胞骨格	1		
4 皮膚	1			4 細胞の形態観察	1		
5 循環器系	3			(2)生命現象を担う分子			9
6 呼吸器系	1			1 脂質	1		
7 消化器系	2			2 糖質	2		
8 泌尿器系	1			3 アミノ酸	1		
9 生殖器系	1			4 タンパク質	1		
10 内分泌系	1			5 ヌクレオチドと核酸	2		
11 感覚器系	1			6 ビタミン	1		
12 血液・造血器系	1			7 生体分子の定性、定量	1		
(2)生命体の基本単位としての細胞		13		(3)生命活動を担うタンパク質			8
1 細胞と組織	3			1 タンパク質の構造と機能	1		
2 細胞膜	3			2 酵素	4		
3 細胞内小器官	1			3 膜輸送体	1		
4 細胞の分裂と死	4			4 タンパク質の取扱い	2		
5 細胞間コミュニケーション	2			(4)生命情報を担う遺伝子			10
(3)生体の機能調節		14		1 総論	1		
1 神経・筋の調節機構	4			2 遺伝情報を担う分子	2		
2 ホルモンによる調節機構	2			3 遺伝子の複製	1		
3 循環・呼吸系の調節機構	3			4 転写とRNAプロセッシング	3		
4 体液の調節機構	2			5 翻訳	1		
5 消化・吸収の調節機構	2			6 遺伝子の変異・修復	1		
6 体温の調節機構	1			7 組換えDNA	1		
(4)小さな生き物たち		22		(5)生体エネルギーと生命活動を支える代謝系			13
1 総論	2			1 生体エネルギー概論	1		
2 細菌	6			2 ATPの産生と糖質代謝	6		
3 細菌毒素	1			3 脂質代謝	2		
4 ウイルス	3			4 飢餓状態と飽食状態	2		
5 真菌・原虫・その他の微生物	2			5 その他の代謝系	2		
6 消毒と滅菌	3			(6)細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達			9
7 検出方法	5			1 細胞間コミュニケーション概論	1		
				2 細胞内情報伝達	6		
C9 生命をミクロに理解する			105	3 細胞間コミュニケーション	2		
(1)細胞を構成する分子		14		(7)細胞の分裂と死			4
1 脂質	4			1 細胞分裂	2		
2 糖質	4			2 細胞死	2		
3 アミノ酸	3						
4 ビタミン	3			C7 生命体の成り立ち			38
(2)生命情報を担う遺伝子		18		(1)人体を構成する器官			24
1 ヌクレオチドと核酸	3			1 遺伝	3		
2 遺伝情報を担う分子	6			2 発生	2		
3 転写と翻訳のメカニズム	5			3 器官系概論	2		
4 遺伝子の複製・変異・修復	3			4 神経系	3		
5 遺伝子多型	1			5 骨格系・筋肉系	2		
(3)生命活動を担うタンパク質		17		6 皮膚	1		
1 タンパク質の構造と機能	3			7 循環器系	3		
2 酵素	6			8 呼吸器系	1		
3 酵素以外の機能タンパク質	5			9 消化器系	2		
4 タンパク質の取扱い	3			10 泌尿器系	1		
(4)生体エネルギー		19		11 生殖器系	1		
1 栄養素の利用	1			12 内分泌系	1		
2 ATPの産生	10			13 感覚器系	1		
3 飢餓状態と飽食状態	8			14 血液・造血器系	1		
(5)生理活性分子とシグナル分子		21		(2)生体の機能調節			14
1 ホルモン	4			1 神経による調節機構	4		
2 オータコイドなど	6			2 ホルモン・内分泌系による調節機構	1		
3 神経伝達物質	4			3 オータコイドによる調節機構	1		
4 サイトカイン・増殖因子・ケモカイン	3			4 サイトカイン・増殖因子・ケモカインによる調節機構	1		
5 細胞内情報伝達	4			5 血圧の調節機構	1		
(6)遺伝子を操作する		16		6 血糖の調節機構	1		
1 遺伝子操作の基本	5			7 体液の調節	2		
2 遺伝子のクローニング技術	7			8 体温の調節	1		
3 遺伝子機能の解析技術	4			9 血液凝固系	1		
				10 性周期の調節	1		

現行

改訂案

現行	改訂案
C10 生体防御	C8 生体防御と微生物
(1)身体をまもる 15	(1)身体をまもる 13
1 生体防御反応 6	1 生体防御反応 4
2 免疫を担当する組織・細胞 4	2 免疫を担当する組織・細胞 3
3 分子レベルで見た免疫のしくみ 5	3 分子レベルで見た免疫のしくみ 6
(2)免疫系の破綻・免疫系の応用 15	(2)免疫系の破綻・免疫系の応用 13
1 免疫系が関係する疾患 4	1 免疫応答 2
2 免疫応答のコントロール 4	2 免疫系の破綻 2
3 予防接種 3	3 免疫応答のコントロール 3
4 免疫反応の利用 4	4 予防接種 2
(3)感染症にかかる 14	5 免疫反応の利用 4
1 代表的な感染症 13	(3)微生物の基本 17
2 感染症の予防 1	1 総論 1
	2 細菌 6
	3 ウイルス 1
	4 真菌・原虫・蠕虫 2
	5 消毒と滅菌 2
	6 検出方法 5
	(4)病原体としての微生物 11
	1 感染と共生 1
	2 代表的な病原微生物 10
	D 衛生薬学
C11 健康	D1 健康
(1)栄養と健康 23	(1)社会・集団と健康 8
1 栄養素 8	1 健康と疾病の概念 1
2 食品の品質と管理 10	2 保健統計 3
3 食中毒 5	3 疫学 4
(2)社会・集団と健康 15	(2)疾病の予防 13
1 保健統計 5	1 疾病の予防とは 2
2 健康と疾病をめぐる日本の現状 3	2 感染症とその予防 4
3 疫学 7	3 生活習慣病とその予防 3
(3)疾病の予防 16	4 母子保健 2
1 健康とは 2	5 労働衛生 2
2 疾病の予防とは 4	(3)栄養と健康 17
3 感染症の現状とその予防 6	1 栄養 7
4 生活習慣病とその予防 3	2 食品機能と食品衛生 7
5 職業病とその予防 1	3 食中毒 3
C12 環境	D2 環境
(1)化学物質の生体への影響 26	(1)化学物質・放射線の生体への影響 16
1 化学物質の代謝・代謝活性化 3	1 化学物質の毒性 6
2 化学物質による発がん 4	2 化学物質の安全性評価と適正使用 5
3 化学物質の毒性 8	3 化学物質による発がん 3
4 化学物質による中毒と処置 2	4 放射線の生体への影響 2
5 電離放射線の生体への影響 6	(2)生活環境と健康 22
6 非電離放射線の生体への影響 3	1 地球環境と生態系 5
(2)生活環境と健康 30	2 環境保全と法的規制 3
1 地球環境と生態系 7	3 水環境 6
2 水環境 8	4 大気環境 3
3 大気環境 4	5 室内環境 2
4 室内環境 4	6 廃棄物 3
5 廃棄物 5	
6 環境保全と法的規制 2	
	E 医療薬学教育
C13 薬の効くプロセス	E1 薬の作用と体の変化
(1)薬の作用と生体内運命 18	(1)薬の作用 12
1 薬の作用 8	1 薬の作用 9
2 薬の運命 5	2 動物実験 3
3 薬の副作用 2	(2)身体の病的変化を知る 9
4 動物実験 3	1 症候 1
(2)薬の効き方I 21	2 病態・臨床検査 8
1 中枢神経系に作用する薬 6	(3)薬物治療の位置づけ 2
2 自律神経系に作用する薬 4	(4)医薬品の安全性 4
3 知覚神経系・運動神経系に作用する薬 3	
4 循環器系に作用する薬 4	E2 薬理・病態・薬物治療
5 呼吸器系に作用する薬 3	(1)神経系の疾患と薬 20
6 化学構造 1	1 自律神経系に作用する薬 4
(3)薬の効き方II 20	2 体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療 3
1 ホルモンと薬 3	3 中枢神経系の疾患の薬、病態、治療 13
2 消化器系に作用する薬 5	(2)免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬 15
3 腎に作用する薬 1	1 抗炎症薬 2
4 血液・造血器系に作用する薬 3	2 免疫・炎症・アレルギーの薬、病態、治療 9
5 代謝系に作用する薬 4	3 骨・関節・カルシウム代謝の疾患薬、病態、治療 4
6 炎症・アレルギーと薬 3	(3)循環器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬 17
7 化学構造 1	1 循環器系疾患の薬、病態、治療 5
(4)薬物の臓器への到達と消失 31	2 血液・造血器系疾患の薬、病態、治療 5
1 吸収 6	3 泌尿器、生殖器の疾患の薬、病態、薬物治療 7

現行

改訂案

2 分布	7		(4)呼吸器系・消化器系の疾患と薬	14
3 代謝	9		1 呼吸器系疾患の薬、病態、治療	4
4 排泄	7		2 消化器系疾患の薬、病態、治療	10
5 相互作用	2		(5)代謝系・内分泌系の疾患と薬	8
(5)薬物動態の解析	17		1 代謝系疾患の薬、病態、治療	3
1 薬動学	12		2 内分泌系疾患の薬、病態、治療	5
2 TDM (Therapeutic Drug Monitoring)	5		(6)感覚器・皮膚の疾患と薬の疾患と薬	10
			1 眼疾患の薬、病態、治療	4
C14 薬物治療		117	2 耳鼻咽喉の疾患の薬、病態、治療	2
(1)体の変化を知る	12		3 皮膚疾患の薬、病態、治療	4
1 症候	1		(7)病原微生物・悪性新生物と薬	42
2 症候と臨床検査値	11		1 抗菌薬	2
(2)疾患と薬物治療(心臓疾患等)	20		2 抗菌薬の耐性	1
1 薬物治療の位置づけ	2		3 細菌感染症の薬、病態、治療	10
2 心臓・血管系の疾患	6		4 ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療	9
3 血液・造血管の疾患	5		5 真菌感染症の薬、病態、治療	2
4 消化器系疾患	6		6 原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療	2
5 総合演習	1		7 悪性腫瘍	3
(3)疾患と薬物治療(腎臓疾患等)	25		8 悪性腫瘍の薬、病態、治療	13
1 腎臓・尿路の疾患	4		(8)バイオ・細胞医薬品とゲノム情報	8
2 生殖器疾患	3		1 組換え体医薬品	3
3 呼吸器・胸部の疾患	3		2 遺伝子治療	1
4 内分泌系疾患	5		3 細胞、組織を利用した移植医療	4
5 代謝性疾患	3		(9)OTC薬・セルフメディケーション	8
6 神経・筋の疾患	6		(10)医療の中の漢方薬	7
7 総合演習	1		1 漢方薬の基礎	4
(4)疾患と薬物治療(精神疾患等)	27		2 漢方薬の応用	2
1 精神疾患	4		3 漢方薬の注意点	1
2 耳鼻咽喉の疾患	3		(11)化学構造、総合演習	2
3 皮膚疾患	4		1 化学構造	1
4 眼疾患	4		2 総合演習	1
5 骨・関節の疾患	4			
6 アレルギー・免疫疾患	4		E3 薬物治療に役立つ情報	56
7 移植医療	1		(1)医薬品情報	38
8 緩和ケアと長期療養	2		1 情報	5
9 総合演習	1		2 情報源	6
(5)病原微生物・悪性新生物と戦う	33		3 収集・評価・加工・提供・管理	4
1 感染症	1		4 EBM(Evidence-Based Medicine)	4
2 抗菌薬	12		5 生物統計	7
3 抗原虫・寄生虫薬	1		6 臨床研究デザインと解析	9
4 抗真菌薬	1		7 総合演習	3
5 抗ウイルス薬	2		(2)患者情報	5
6 抗菌薬の耐性と副作用	2		1 情報と情報源	2
7 悪性腫瘍の病態と治療	3		2 収集・評価・管理	3
8 抗悪性腫瘍薬	8		(3)個別化医療	13
9 抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用	3		1 遺伝的素因	4
			2 年齢的要因	2
C15 薬物治療に役立つ情報		53	3 臓器機能低下	3
(1)医薬品情報	28		4 その他の要因	3
1 情報	5		5 総合演習	1
2 情報源	7			
3 収集・評価・加工・提供・管理	5		E4 薬の生体内運命	34
4 データベース	3		(1)薬物の体内動態	23
5 EBM(Evidence-Based Medicine)	6		1 吸収	6
6 総合演習	2		2 分布	5
(2)患者情報	9		3 代謝	7
1 情報と情報源	2		4 排泄	5
2 収集・評価・管理	7		(2)薬物動態の解析	11
(3)テーラーメイド薬物治療を目指して	16		1 薬物速度論	7
1 遺伝的素因	3		2 TDM (Therapeutic Drug Monitoring)と投与設計	4
2 年齢的要因	3			
3 生理的要因	3		E5 製剤化のサイエンス	35
4 合併症	3		(1)製剤の性質	14
5 投与計画	4		1 固形材料	5
			2 半固形・液状材料	2
C16 製剤化のサイエンス		42	3 分散系材料	4
(1)製剤材料の性質	17		4 薬物及び製剤材料の物性	3
1 物質の溶解	4		(2)製剤設計	11
2 分散系	5		1 代表的な製剤	6
3 製剤材料の物性	8		2 製剤化	4
(2)剤形をつくる	13		3 生物学的同等性	1
1 代表的な製剤	8		(3)DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム)	10
2 製剤化	3		1 DDSの必要性	1
3 製剤試験法	2		2 コントロールリリース	3
(3)DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム)	12		3 ターゲティング	3
1 DDSの必要性	2		4 膜透過促進	3
2 放出制御型製剤	6			
3 ターゲティング	2			
4 プロドラッグ	1			

現行

改訂案

5 その他のDDS	1						
C17 医薬品の開発と生産			60				
(1)医薬品開発と生産のながれ	17						
1 医薬品開発のコンセプト	2						
2 医薬品市場と開発すべき医薬品	4						
3 非臨床試験	1						
4 医薬品の承認	4						
5 医薬品の製造と品質管理	3						
6 規範	1						
7 特許	1						
8 薬害	1						
(2)リード化合物の創製と最適化	10						
1 医薬品創製の歴史	1						
2 標的生体分子との相互作用	4						
3 スクリーニング	2						
4 リード化合物の最適化	3						
(3)バイオ医薬品とゲノム情報	11						
1 組換え体医薬品	3						
2 遺伝子治療	1						
3 細胞を利用した治療	1						
4 ゲノム情報の創薬への利用	4						
5 疾患関連遺伝子	2						
(4)治験	10						
1 治験の意義と業務	6						
2 治験における薬剤師の役割	4						
(5)バイオスタティクス	12						
1 生物統計の基礎	7						
2 臨床への応用	5						
D1 実務実習事前学習			77	F 薬学臨床教育			233
(1)事前学習をはじめるにあたって	7			F1 薬学臨床教育基礎		30	
1 薬剤師業務に注目する	3			(1) 医療倫理		8	
2 チーム医療に注目する	3			(2) 薬剤師の使命と責任		5	
3 医薬分業に注目する	1			(3) 薬学的管理の実践		17	
(2)処方せんと調剤	17			F2 処方せんに基づく調剤		112	
1 処方せんの基礎	6			(1) 法令遵守		9	
2 医薬品の用法・用量	5			(2) 処方せん受付と疑義照会		13	
3 服薬指導の基礎	1			(3) 処方せんに基づく医薬品の調製		23	
4 調剤室業務入門	5			(4) 患者来局者対応・服薬指導・患者教育		24	
(3)疑義照会	10			(5) 医薬品の供給と管理		22	
1 疑義照会の意義と根拠	4			(6) 安全管理		21	
2 疑義照会入門	6			F3 薬物療法の実践		19	
(4)医薬品の管理と供給	22			(1) 患者情報の把握		9	
1 医薬品の安定性に注目する	2			(2) 医薬品情報の収集と活用		10	
2 特別な配慮を要する医薬品	9			(3) 処方設計と薬物治療の実践		27	
3 製剤化の基礎	5			1 処方設計と提案		13	
4 注射剤と輸液	4			2 薬物療法の評価		14	
5 消毒薬	2			F4 チーム医療への参画		16	
(5)リスクマネジメント	7			(1) 医療機関におけるチーム医療		10	
1 安全管理に注目する	3			(2) 地域におけるチーム医療		6	
2 副作用に注目する	1			F5 地域の保健・医療・福祉への参画		29	
3 リスクマネジメント入門	3			(1) 在宅医療・介護への参画		7	
(6)服薬指導と患者情報	14			(2) 地域保健(公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動)への参		6	
1 服薬指導に必要な技能と態度	7			(3) セルフメディケーション・プライマリケアの実践		12	
2 患者情報の重要性に注目する	3			(4) 災害時医療と薬剤師		4	
3 服薬指導入門	4						
(7)事前学習のまとめ							
D2 病院実習			108				
(1)病院調剤を実践する	49						
1 病院調剤業務の全体の流れ	6						
2 計数・計量調剤	21						
3 服薬指導	5						
4 注射剤調剤	10						
5 安全対策	7						
(2)医薬品を動かす・確保する	14						
1 医薬品の管理・供給・保存	8						
2 特別な配慮を要する医薬品	4						
3 医薬品の採用・使用中止	2						
(3)情報を正しく使う	11						
1 病院での医薬品情報	4						
2 情報の入手・評価・加工	3						
3 情報提供	4						
(4)ベッドサイドで学ぶ	24						
1 病棟業務の概説	3						
2 医療チームへの参加	2						
3 薬剤管理指導業務	17						
4 処方支援への関与	2						
(5)薬剤を造る・調べる	4						

現行

改訂案

	1 院内で調製する製剤	2					
	2 薬物モニタリング	1					
	3 中毒医療への貢献	1					
	(6)医療人としての薬剤師		6				
	D3 薬局実習			114			
	(1)薬局アイテムと管理		11				
	1 薬局アイテムの流れ	3					
	2 薬局製剤	2					
	3 薬局アイテムの管理と保存	3					
	4 特別な配慮を要する医薬品	3					
	(2)情報のアクセスと活用		12				
	1 薬剤師の心構え	2					
	2 情報の入手と加工	7					
	3 情報の提供	3					
	(3)薬局調剤を実践する		63				
	1 保険調剤業務の全体の流れ	2					
	2 処方せんの受付	8					
	3 処方せんの鑑査と疑義照会	5					
	4 計数・計量調剤	17					
	5 計数・計量調剤の鑑査	1					
	6 服薬指導の基礎	7					
	7 服薬指導入門実習	4					
	8 服薬指導実践実習	5					
	9 調剤録と処方せんの保管・管理	5					
	10 調剤報酬	2					
	11 安全対策	7					
	(4)薬局カウンターで学ぶ		10				
	1 患者・顧客との接遇	4					
	2 一般用医薬品・医療用具・健康食品	2					
	3 カウンター実習	4					
	(5)地域で活躍する薬剤師		15				
	1 在宅医療	3					
	2 地域医療・地域福祉	3					
	3 災害時医療と薬剤師	1					
	4 地域保健	8					
	(6)薬局業務を総合的に学ぶ		3				
	1 総合実習	3					
	E 卒業実習教育			4	G 薬学研究		13
	E1 総合薬学研究		3		G1 薬学における研究の位置づけ		4
	(1)研究活動に求められる態度	1					
	(2)研究活動を学ぶ	1			G2 研究に必要な法規範と倫理		3
	(3)未知との遭遇	1					
	E2 総合薬学演習		1		G3 研究のプロセス		6